

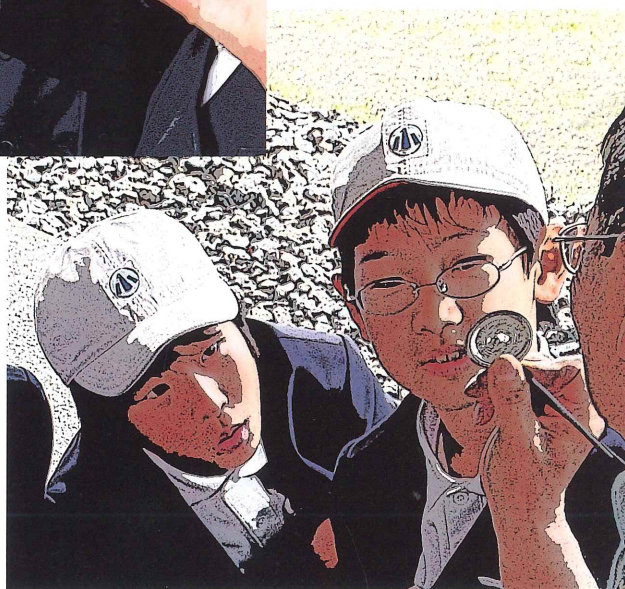
兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.7



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2011 Spring-Summer



—平成23年—

- 特別展「木のうつわ 六千年の技」…………… 2
- 研究ノート「中近世考古学」への視点…………… 4
- 企画展「はかせからの挑戦状 古墳のナゾをとけ」…………… 6
- 学芸員が選ぶ、私のイチオシ館藏品「梅田東古墳群出土のガラス玉」…… 6
- 「放課後博物館」を目指して…………… 7

特別展

「木のうつわ 六千年の技」

◆はじめに◆

豊かな森に恵まれた日本では六千年を遙かに遡る時代から木の文化を育み、発展させてきました。

本展では日本人の生活の中にとけ込んできた木の文化の中でも「うつわ」を取り上げ、特にそこに込められた匠の技に焦点をあてて紹介します。

◆縄文のうつわ◆

最初に紹介するのは鳥浜貝塚(福井県)から出土した縄文時代前期(約六千年前)のうつわです。

縄文のタイムカプセルとも称される鳥浜貝塚のうつわは本当に石器だけで作ったのかと疑うほど薄く丁寧に仕上げられています。皿や鉢、グラス状のうつわには赤や黒の漆で色鮮やかに彩られたものがあります。その形やデザインには現代にも通じる斬新さが感じられます。

◆弥生・古墳のうつわ◆

本格的な米作りが日本に広まる弥生時代にはうつわにも新しい形が登場し、鉄器の普及とともに精巧さを増していきます。



(上) 和泉市四ツ池遺跡出土高坏 (大阪府教育委員会蔵)

(下) 四条畷市雁屋遺跡出土四脚合子

(四条畷市教育委員会蔵 市指定文化財)



鳥取県青谷上寺地遺跡出土桶形木製品
(鳥取県埋蔵文化財センター蔵)

唐古・鍵遺跡(奈良県)や大阪府内の諸遺跡、兵庫県では玉津田中遺跡、丁・柳ヶ瀬遺跡など畿内とその周辺地域の弥生時代を代表するうつわをご覧ください。

大きな高坏は収穫を感謝する祭りでは供え物を捧げるのに欠かせなかったことでしょう。四本の長い脚をもった蓋付きの合子には、どんな大切なものが入れていたのかと想像をかきたててくれます。

また、山陰から北陸の日本海沿岸地域では、畿内とは異なる独自の“うつわ文化”が花開きます。青谷上寺地遺跡(鳥取県)や西念・南新保遺跡(石川県)のうつわは豊富な鉄製工具を生かし技の限りを尽くして作られました。その美しさは感動的です。

互いの技量を競ったかのような弥生時代のうつわも、古墳時代になると次第に姿を消していきます。うつわづくりに長じた工人達は、大古墳を造営する強大な権力者のもとで、彼らの権威を象徴する器物を作る集団へと組み込まれていったと考えられています。しかし、同時に新たなうつわ作りの技術も着実に根付いていきます。

◆律令国家のうつわ◆

奈良に都が置かれ、日本各地に国や郡の役所が設けられた奈良時代～平安時代のうつわは天皇を中心とした儀式や饗宴の席などで使われました。この時代のうつわの代表は、轆轤ろくろを使って削りだした挽物ひきもの、丸めた薄板に板をはめた曲物まげものです。漆器は天皇や皇族、身分の高い貴族だけに使用が許されたもので、奈良時代には黒一色に、平安時代になると内面を赤く塗った朱漆器が登場します。

都(平城宮、平城京)と地方官衙(兵庫県の袴狭遺跡、山垣遺跡、市辺遺跡)の漆器や曲物、挽物などを見ると、それ以前のうつわに比べ簡素で形も統一されていることが一目瞭然です。

◆中近世社会とうつわ◆

中世になると中央や地方の官営工房にいた轆轤師は良材を求めて諸国の山々を漂泊するようになります。後に木地師きじしと呼ばれる彼らの活躍によって、日常雑器としての漆器が普及していきます。また、桶や樽などの結物ゆいものが出現し日常生活に浸透していきます。

宮内堀脇遺跡(兵庫県)は、戦国時代の守護大名として歴史に名を残した山名氏が本拠ねごろぬりを置きました。また、播磨の名利一書寫山圓教寺しよしやぬりでは根来塗の流れをくむ書写塗が製作されます。色鮮やかな朱漆器や鶴亀の縁起物が描かれた漆器などを中心に、日常生活に溶け込んだうつわをご覧頂くとともに、木地師の活躍を追います。

◆至芸のうつわ◆

こうした出土品を中心としたうつわだけでなく、日本各地には優れた工芸品としてのうつわが今に伝わります。正倉院宝物の復元模造品と豊臣秀吉とその正室、ねねゆかりの高台寺に伝わる高台寺蒔絵が本展に華を添えます。その華麗な美しさをじっくりご堪能ください。

◆過去と未来をつなぐ博物館として◆

県内には現在も木地師として活躍されている方や桶作りの職人さんなど、うつわ作りの仕事に携わっている方がおられます。そして、飛騨高山の木工家、稲本正氏は仲間とともに持続可能な循環型社会を「木」という再生可能な資源で実現しようと提案し続けて



高台寺蒔絵湯桶

(高台寺蔵 写真提供: 京都国立博物館) 重要文化財

おられます。地球温暖化をはじめ様々な環境問題への解決の糸口を、日本古来の木の文化を見直す中でみなさんと見つけていきたいと考えています。

(学芸課 藤田 淳)

《特別展のお知らせ》

会 期

平成23年4月23日(土)～6月26日(日)

(月曜休館 但し4月26日～5月8日までは無休)

観覧時間 9:30～18:00(入館は17:30まで)

観覧料金 大人500円、大学生400円、
高校生250円、中学生以下は無料

講演会 講堂(13:30～15:00)

●4月23日(土)

「木を識る 組織でわかる木の特性と樹種」

伊東 隆夫(京都大学名誉教授)

●5月14日(土)

「鳥浜貝塚にみる縄文容器の世界」

網谷 克彦(敦賀短期大学教授)

●5月21日(土)

「弥生精製容器の“技”に迫る」

工楽 善通(大阪府立狭山池博物館長)

●5月28日(土)

「ミクロで迫る古代の漆工技術」

岡田 文男(京都造形芸術大学教授)

●6月4日(土)

「役所のうつわから庶民のうつわへ」

藤田 淳(学芸員)

●6月11日(土)

「森の記憶 木の文化の今、そして未来」

稲本 正(木工家・オークヴィレッジ代表)

※5月15日以降の日曜日とG. W. 期間にウッドイイ体験を開催します。

研究ノート

「中近世考古学」への視点

昨春の特別展「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」が好評を得ましたように、考古博物館の事業でも城館関連などの中近世考古学を対象とした発掘調査や研究が進んでいます。

1. はじめに

我が国の埋蔵文化財保護の法制度の歴史を少し振り返ってみます。明治4年(1871)に明治政府太政官布告「古器旧物保存方」から明治10年(1877)に内務省への埋蔵物届け出が義務化されます。大正8年(1919)に「史蹟名勝天然記念物保存法」、昭和4年(1929)「国法保存法」、昭和8年(1933)「重要美術品等保存法」(重要美術品等ノ保存ニ関する法律)と、法整備が進みました。戦後、「文化財保護法」が昭和25年(1950)になって公布され、幾多の改正が加えられ、60年が過ぎました。また、昭和39年(1964)になって「兵庫県文化財保護条例」が制定されています。



世界遺産姫路城(男山からの眺望)

2. 中近世の史蹟・史跡の指定について

中近世を対象した史蹟・史跡指定の推移から中近世考古学の位置が見えてきます。兵庫県内では「史蹟名勝天然記念物保存法」制定に伴い、大正11年(1922)に幕末大坂湾海防拠点である和田岬砲台・西宮砲台が最初に史蹟指定されました。大正12年(1923)には赤穂義士で名高い大石良雄宅跡、昭和3年(1928)に姫路城跡(現在、世界遺産登録・特別史跡)、また昭和9年(1934)に円教寺境内、昭和18年(1943)に竹田城跡が史蹟に指定されています。

「文化財保護法」後の昭和26年(1951)に楠木正成墓碑、多田院が史跡指定されました。昭和31年(1956)に篠山城跡、昭和41年(1966)に近松門左衛門墓、昭和46年(1971)に柏原陣屋跡と赤穂城跡、中世城郭としては昭和54年(1979)に有岡城跡、平成元年(1989)に黒井城跡、平成8年(1995)に赤松氏城跡 白旗城跡・感状山城跡・置塩城跡、山名氏城跡 此隅山城跡・有子山城跡、平成9年(1997)に八木城跡が、平成11年に洲本城跡が続いて指定されました。平成16(2004)には、懸案であった明石城跡が、平成17年(2005)に八上城跡、平成18年(2005)に徳島藩松帆台場跡と播州葡萄園跡、平成19年(2007)に明石藩舞子台場跡が指定されています。つまり、中世山城8件、中世山岳寺院1件、多田院1件と近世城郭4件、陣屋1件、宅跡1件、近世墓・墓碑2件および幕末大坂湾海防の砲台・台場4件と近代遺跡1件です。

一方、「兵庫県文化財保護条例」後の昭和40年(1965)に石龕寺町石、昭和44年に嘴崎磨崖仏、昭和46年(1971)に一遍廟所、鵜荘傍示石、丹波焼古窯跡、養宜館跡が、昭和49年(1974)に三田青磁第1窯跡、昭和54年(1979)土居の内(土塁及び濠)、昭和59年(1984)に緑風台窯跡群(1号窯・2号窯)、平成4年(1992)に黒崎墓所、平成13年(2001)に岩尾城跡、平成14年(2002)に天兒屋鉄山跡、平成17年(2005)に三田焼・三輪明神窯跡群が、「県史跡」に指定されています。つまり、中世の廟所1件、傍示石1件、窯跡1件、磨崖仏1件、城館3件と近世の窯跡2件、墓1件、町石1件、鉄山跡1件です。

3. 兵庫県の中近世考古学の発掘調査

史跡の整備を目的に発掘調査を実施している篠山城跡、赤穂城跡、姫路城跡と発掘調査の成果を価値判断して、史跡指定された幕末の徳島藩松帆台場跡・明石藩舞子台場跡と近代の播州葡萄園跡があります。また、兵庫県では山陽新幹線、中国道、舞鶴若狭道、山陽道、神戸淡路鳴門道、北近畿道などの幹線交通網建設に伴う発掘調査を主に実施してきています。中でも中近世遺跡を対象としたものは、分類すると城館、都市、道、寺院、墓、経塚、生産、窯跡などがあります。城館には山城、平城、陣屋、方形居館があり、都市には城下町、武家屋敷、郷町、港湾都市があります。道は中世山陽道です。寺院は堂跡と墓地があります。経塚は中世

前期および後期の廻国納経の二時期があります。生産遺跡は採石場(竜山石・花崗岩)と鉄鍋や梵鐘の生産遺跡があります。また窯跡としては東播系須恵器・瓦と丹波焼諸窯と近世磁器窯の調査があります。



中尾城跡出土丹波焼

4. 兵庫の中近世考古学の特徴

中世遺跡の発掘調査は、瓦陶兼業生産として東播系須恵器窯跡群の魚住古窯跡群や神出窯跡群の調査から始まります。また、丹波焼系などの陶器窯跡群の調査は、三本峠北窯の調査や緑風台窯跡群に始まります。

兵庫に都の夢見た平清盛の福原京関連の神戸大学医学部付属病院構内遺跡(楠・荒田町遺跡)調査などと大輪田泊の修築や「兵庫北関入船納帳」の世界を探る兵庫津遺跡下層調査があります。春霞の彼方に平清盛一党の日常が見え始めてきました。

一方、城館の発掘調査は、小寺氏・赤松氏の御着城・坂本城の調査からはじまり内場山城跡、中尾城跡・三田城跡や三木城付城群の調査などがあります。特に中尾城跡では山城には珍しく多量の丹波焼を始め、多くの遺物が残されていました。方形居館は福田片岡遺跡や初田館跡があり、初田館跡では天文15年(1546)銘大般若経転読札や呪符木簡(鎌倉時代)があります。また、玉津田中遺跡でも将棋駒や呪符木簡が方形居館(鎌倉時代)の池や土坑から出土しています。

史跡山名氏城跡の居館群のひとつである宮内堀脇遺跡では、武家の生活空間を描き出す天文23年(1554)銘位牌、墨書土器群、茶道具、将棋駒や武具・武器類はじめ越前焼を中心とした土器類・木器類や漆器が豊富に出土しています。

また、史跡基本資料へ発掘調査がなされた史跡置塩城跡があり、山上の曲輪に蔵や庭園を見いだしたな

ど成果は重要です。また神戸市の端谷城跡では、蔵に胴丸甲が13領以上も収められていました。

中世の経塚や墓に収められた鏡・白磁・青磁・青白磁をはじめ秀品は多く、上板井経塚や多利・前田遺跡の出土品は県重要美術品に指定され、同じく勝雄経塚に納められた享禄3年(1530)銘の経筒と法華経八巻と外容器としての備前焼肩衝壺もあります。

次に近世遺跡の調査として、安富東遺跡(安志藩家老屋敷)は絵図や屋敷割図を検証する契機とし、伊丹郷町遺跡の調査があります。遺構は「元禄絵図」と「天保絵図」の比較検証、寺と墓、酒造遺構の調査は西宮郷や西灘郷の酒造遺構の調査へ進んでいます。また、城下町調査(姫路城・篠山城・明石城・赤穂城)の成果は、阪神・淡路大震災後には兵庫津遺跡の「元禄絵図」町屋復元などの調査へ進みました。



伊丹郷町墓出土土人形類

また、記録不詳の磁器窯津万井窯跡やタイルの調査研究が近代化遺産研究に寄与する珉平焼があります。さらに、遺跡の保存問題を契機とした徳川大坂城東六甲採石場調査研究を広域的に進め、全国の城石垣採石場の調査研究への指針を示しています。なお、近代鉄道遺跡調査では、姫路駅転車台や駅茶瓶の発見もあります。

5. 中近世考古学の展望

中近世考古学の歩みは、①陶磁器研究と土師器研究②山城と居館の調査③武家屋敷と町屋の調査④福原京から兵庫津へ⑤震災後の明石城跡史跡指定⑥徳川大坂城東六甲採石場調査研究⑦幕末大坂湾海防台場群と近代由良要塞⑧丹波焼の研究があり、今後も重要な視点です。

(事業部長 岡崎 正雄)

企画展

はかせからの挑戦状
「古墳のナゾをとけ」

2年間続いた「夏休み・考古学ナゾとき教室」では、縄文時代と弥生時代のナゾときを楽しんで頂きました。今年の夏休みは、古墳のナゾをめぐる「はかせからの挑戦状」を企画しています。

「古墳って何?」「どんなかたちの古墳があるの?」など、古墳に関する基礎知識から、ほんの小さな破片から全体の形を復元する埴輪の応用問題まで、触れて、試して、考える、ハンズオン展示を楽しみながら、ナゾときにチャレンジして下さい。全てのナゾをクリアすれば、あなたも古墳はかせです!

期間中の日曜日にはクイズラリーを行います。土曜日には勾玉や埴輪など、古墳時代に関する「ものづくりイベント」も計画していますので、お楽しみに!

今年の夏休みの自由研究は、古墳のナゾときで決まります。楽しみながら学べる考古博物館に、みんなそろって遊びに来てくださいね。(学芸課 菱田 淳子)



会 期

平成23年7月20日(水)～8月31日(水)

(会期中無休)

観覧時間 9:30～18:00(入館は17:30まで)

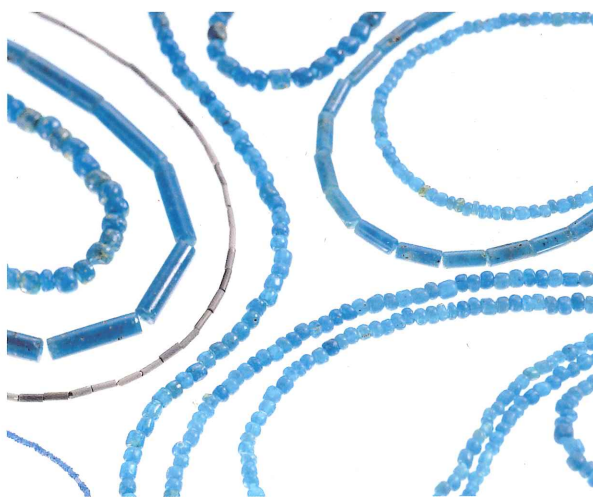
観覧料金 通常展示と同額です。

シリーズ

学芸員が選ぶ、私のイチオシ館蔵品
「梅田東古墳群出土のガラス玉」

梅田東古墳群(朝来市和田山町)は、弥生時代後期の木棺墓と古墳時代初めの古墳で構成されています。副葬品として首飾りや腕飾りに使われたガラス玉が多数出土しました。科学的な分析によって、出土したガラスはカリガラスと呼ばれるもので、透き通る淡い青色は酸化銅の銅イオン、青紺色は酸化コバルトのコバルトイオンによって、美しく発色していることがわかりました。

作り方を細かく観察すると、小玉は引き延ばしたガラス管を小口切りに切断して作っています。一方、管玉は引き伸ばしや巻き付けといったガラスの特性を生かした方法ではなく、石材の玉と同じように、長方体もしくは円柱状のガラスブロックの表面を磨き、錐で孔を穿つ方法で作られています。このような作り方は九州地域では確認できず、北陸・畿内・山陰・山陽地域にみられます。



ガラスは、弥生時代の前期末から中期初め頃に九州地方に伝わり、弥生時代後期には、各地に広がっていきます。但馬の東、丹後(京都府)の大風呂南1号墓や赤坂今井墳丘墓など弥生時代末の王墓級の遺跡から大量の青いガラス玉が出土しています。県内でも丹波の内場山遺跡(篠山市)から弥生時代の緑や青のガラス玉が出土しており、透き通るガラスの輝きを好んだ丹後・丹波・但馬の人々の地域的なつながりを感じる逸品です。(学芸課 菱田 淳子)

「放課後博物館」を目指して

「学校が終わったら考古博に行ってみよう」

そんな会話が小学生たちの中で交わされることを願って、昨年10月から「読み聞かせ」「折り紙」「弥生ごっこ」「クリスマスカードづくり」などのメニューをそろえて、毎週水曜日の午後4時から「放課後博物館」を開始しました。

学校が終わってから考古博物館に遊びに来て、コンピューターゲームだけをして帰るという子ども達が多いのを見て、「子どもたちに何かできることはないか」と考古博ボランティアが立ち上がりました。

考古博らしい体験ができるのではないかと考えた結果、10月にむかしばなしの「読み聞かせ」を始めました。さらに参加した子どもたちの「折り紙がしたい」という意見を取り入れて、次回からは「折り紙」も入れました。

「折り紙」が大変好評だったため、年末年始の博物館のイベントにも「干支折り紙」として登場し、新年にちなんでウサギを作りました。



「弥生ごっこ」で遊ぶ

11月には、「弥生ごっこ」を実施しました。

「弥生ごっこ」は、弥生時代のムラをテーマにした、ままごとセットです。

参加した子ども達の中には、「おばあちゃんが病気で食べ物を取ってくる」というストーリーを考えて、各自が役を演じるというグループもありました。

「狩りや釣りの道具が欲しい」「さかなの種類を増やして」など、いろいろな意見が出てきます。

「この土器は何に使うの?」ありがたい質問です。考

古博ならではの解説ができました。

子どもたちは考古学の勉強をしながら、想像の世界は大きく大きく広がっていきました。

12月には、ボランティアの中から、「飛び出すクリスマスカードが作れるよ」という声があり、構想が膨らんで、土偶くん・ハニワくんが飛び出てくるクリスマスカードづくりをしました。

「クリスマスカードづくり」は、小学生はもちろん大人の方々も熱心に取り組んでおられました。「帰ったらお母さんにあげよう」「わたしは自分で持っとくよ」みんなできあがりに満足されていました。



クリスマスカードづくり

今回は10月から12月まで8回実施しましたが、当館のボランティアにも、まだまだ秘められた特技がありそうです。今後も子どもたちのニーズに応えていきたいと思っています。今年の放課後博物館は6月から再開します。

考古博物館は、近隣地域の方々、特に小中学生以下の子ども達にとって身近な存在になっています。その子どもたちと一緒に活動しながら、楽しい博物館にしていこうと思います。

また、大人の方も気兼ねなくご参加下さい。子どもたちと一緒に童心に帰るのもよし。今の子ども達を知るものよし。何かを感じていただけると確信しております。

“楽しい”がこだまする考古博へ

みなさんお越し下さい

(学習支援課 石丸 裕志)

展覧会	月	講演会	解説・ツアー	イベント	体験講座
4月23日(土) ～6月26日(日)	4月	9日(土) 兵庫考古学研究最前線1 「自然災害と考古学Ⅰー火山編ー」 種定淳介(学芸課長)	9日(土) バックヤード見学ツアー	10日(日) 紙芝居(毎月第2日曜)	
		16日(土) 兵庫考古学研究最前線2 明石人骨発見30周年記念フォーラム 『石の骨』の軌跡	17日(日) 学芸課長が語る “考古学のツボ”		
		23日(土) 特別展講演会 「木を識る 組織でわかる木の特性と樹種」 伊東隆夫(京都大学名誉教授)	24日(日) 特別展 展示解説	29日(金) 5月1日(日) ゴールデンウィーク ウッディ体験	
特別展 「木のうつわ 六千年の技」	5月	14日(土) 特別展講演会 「鳥浜貝塚にみる縄文容器の世界」 網谷克彦(敦賀短期大学教授)	1日(日) 特別展 展示解説 3日(火) 実演! よみがえる古代の出土品 5日(木) 特別展 展示解説	3日(火) 5日(木) 考古博であそぼう	
		21日(土) 特別展講演会 「弥生精製容器の“技”に迫る」 工業善通(大阪府立狭山池博物館長)	14日(土) バックヤード見学ツアー 15日(日) 特別展 展示解説 22日(日) 特別展 展示解説	15日(日) 日曜ウッディ体験 22日(日) 日曜ウッディ体験	
		28日(土) 特別展講演会 「ミクロで迫る 古代の漆工技術」 岡田文男(京都造形芸術大学教授)	25日(水) 特別展関連ツアー 園教寺特別拝観と書写塗の うつわで味わう精進料理 29日(日) 特別展 展示解説	29日(日) 日曜ウッディ体験	
	6月	4日(土) 特別展講演会 「役所のうつわから庶民のうつわへ」 藤田淳(学芸員)		5日(日) 日曜ウッディ体験	5日(日) 基礎からわかる 古代の土器づくり
		11日(土) 特別展講演会 「森の記憶 木の文化の今、そして未来」 稲本正(木匠家・オークヴィレッジ代表)	11日(土) バックヤード見学ツアー 18日(土) 実演! よみがえる古代の出土品 19日(日)	12日(日) 日曜ウッディ体験 19日(日) 日曜ウッディ体験 25日(土) ひとがた流し 26日(日) 日曜ウッディ体験	12日(日) 赤米をつくろう(田植え)
7月20日(水) ～8月31日(水)	7月	9日(土) 兵庫考古学研究最前線3 「古墳がはじまる頃の○:□:△」 石野博信(館長)	3日(日) 学芸課長が語る “考古学のツボ” 9日(土) バックヤード見学ツアー 16日(土) 実演! よみがえる古代の出土品 17日(日)		3日(日) 弥生時代のツボ形土器づくり 8日(金) 古代組ひも入門
					17日(日) ずしり! 金属で勾玉づくり 23日(土) ハニワくんをつくろう 24日(日) キラリ! ガラスで勾玉づくり 30日(土) 紙ひもでハニワくんをつくろう 31日(日) 小・中学生のための土器づくり
企画展 「はかせからの挑戦状 古墳のナゾをとけ」	8月	20日(土) 兵庫考古学研究最前線4 「古墳時代の“ものづくり”」 菱田淳子(学芸員)	13日(土) バックヤード見学ツアー		7日(日) 円筒ハニワづくり 14日(日) 親子で“ハニワ船”をつくろう 19日(金) 小・中学生のための組ひもづくり 21日(日) チャレンジ! 本格勾玉づくり 28日(日) 強力パワー! 子持ち勾玉づくり
	9月	10日(土) 兵庫考古学研究最前線5 「発掘が語る丹波篠山」 多賀茂治(学芸員)	4日(日) 学芸課長が語る “考古学のツボ” 10日(土) バックヤード見学ツアー 17日(土) 実演! よみがえる古代の出土品 19日(月・祝)	17日(土) 19日(月・祝) 考古博であそぼう	11日(日) ご飯も炊ける弥生土器づくり
		24日(土) 兵庫考古学研究最前線6 「特別展みほとけの考古学の見どころ」 松井良祐(学芸員)			

■「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:00～15:00

■休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日)※5月2日(月)は開館、7月20日(水)～9月4日(日)は無休

■体験講座は事前予約が必要です。TEL.079-437-5564(学習支援課)

兵庫県立考古博物館NEWS vol.7 2011Spring-Summer

発行年月日 平成 23年 3月16日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

http://www.hyogo-koukohaku.jp

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用
ください(普通車 1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

